

- 本事業では、コロナ禍で一層需要が高まっている自県内・隣県での短期労働力支援を中心として求職者層の掘り起こしをはかる
- ・人口の密集している仙台市を新たな労働力掘り起しの中心地とし、経済圏で連携関係の深い宮城・山形・福島の南東北3県を活動対象とする
- ・短期労働力支援に有効な手段である「求人サイトの活用」、特に求人アプリ「daywork」を中心に「アグリ人財バンク」の仕組みを活用し促進する
- ・各県のJAグループをはじめ連携団体と協力しながら、アンケート、セミナーなどを活用し求職者層の掘り起こしをはかる活動を進めていく

## 事業実施主体構成員

〈実施主体〉株式会社農協観光

- ・本社：事業統括部 労働力応援事業課（東京都）
- ・支店・エリアセンター：南東北支店（仙台市）

宮城エリアセンター（仙台市）  
山形エリアセンター（山形市）  
福島エリアセンター（福島市）  
郡山エリアセンター（郡山市）

〈連携団体〉

- ・JAグループ宮城・山形・福島
- ・農協観光協定旅館連盟、協力みのり会（弊社協定の観光事業者）
- ・仙台商工会議所
- ・鎌倉インダストリーズ（農業求人アプリ「daywork」運営会社）

## 実績値（目標値）

■新たに受入する担い手農家数

南東北3県計 500人（宮城県200人、山形県150人、福島県150人）※上記の新たに受入する担い手数は、求職者とイコールでありマッチング数となる。マッチング数のうち半数は、法人需要の掘り起こしによる新たな求職者を目指す

【令和4年2月途中経過】

アグリ人財バンク登録者数（実績は4年度2月次現在）  
南東北

目標 500人（宮城県200人、山形県150人、福島県150人）

実績 75人（宮城県33人、山形県28人、福島県14人）

合計人員の目標対比 15% 引き続き、セミナー、部会などで登録を促進する

## 令和4年度取組み内容

### 今年度の取組み内容

#### ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

・JAグループにて過去に実施した調査結果等を基礎資料として収集。不足する地域の情報は、セミナー参加案内やJA組合員組織（青壮年部組織・生産部会等）に依頼をする予定であったが、農繁期と重なり協力を得ることが難しかったことから、法人のアンケートと就職者のアンケートで、労働条件などを比較した。

■労働力として期待できる法人および個人に関するニーズ調査を実施。

##### 1、＜法人＞

仙台商工会議所会員企業および観光に関連する企業、その他企業を対象としたアンケートを実施

●実施期間：令和4年12月27日（火）から1月25日（水） ●実施様式：WEB形式 ●回答者：4件 ●設問項目およびアンケート結果：別紙報告書参照

※分析結果を労働力確保の活動へ活用。

【結果】今回は、協力をいただける企業が少なかったが、労働環境や条件について、一般的な農家と比較することができた。農家でも最近が増えてきたが、農家で無い企業では、求人媒体はWEB求人サイトが主流。募集や雇用をする際に注意する点では、企業では労働関連の法律を注意している。農家の中には、意識がまだ低い農家もあるのが現状。また、時給では企業では1,000円以上を考えているが、農家側では最低賃金が少し上乗せくらいに設定することが多いため、賃金の差が目立つ。また、企業では昇給や賞与の制度があることや完全週休二日制を採用している。福利厚生面では、通勤交通費や健康診断費用補助、社員旅行などのリクリエーションの制度を採用している企業が多い。環境面では、トイレと休憩室は設置されており、農家でも働きやすい環境として整備が必要と思われる。今回はアンケート数が少なかったため、業種により比較が難しい面もあったが、農家も募集媒体はWEBに目を向けることや、労働条件（法律面）、賃金面、環境面（トイレや休憩室）も意識することで、農家で働いてもらうために必要な側面となることがわかった。

調査結果は、労働力支援に取組むJA・行政等へフィードバックし、地域の求人活動に反映していく。

##### 2、＜個人＞

農業に興味・関心の高い層を対象（南東北3県の求人アプリ会員）とし、WEBによるアンケート調査を実施。

●実施期間：令和4年12月27日（火）から1月25日（水） ●実施様式：WEB形式 ●回答者：173件 ●設問項目およびアンケート結果：別紙報告書参照

※分析結果を労働力確保の活動へ活用

##### 【結果】

今回、回答に協力をいただいた方は、40歳以上の方が6割を占め、35%の方が会社員、自営業と主婦・主夫の方が9%であった。ハローワークも利用しているが、WEBとアプリを利用する方が多く、仕事内容や勤務地、時給も重視して仕事を探している。

若手の農家も増えており、このWEBを活用した流れは増えていくと思われる。農作業の内容は、果樹やハウス内の野菜類に人気が高かった。希望は、通年で働け、始業は朝8、9時、終業を16・17時であり、一般企業のような日中の時間帯。時給は900円から1,000円を約半数が希望し、残りの約半数が1,001円以上を希望。また、農家が設定する時給との差も注意していかなければならない。1週間あたりの勤務日数は4～5日が約半数で次に2～3日、休日は約半数の方が週休2日を希望していた。福利厚生面は、通勤交通費の支給希望が約9割となり、この条件をつけないと求人の確保は難しい。他に、手袋などの消耗品や食事補助の希望が約半数であったので、農家で働きたい方へのPRとしても活用できそうである。

法人と同じことが言えるが、簡単に求人を募集でき、求職者側も応募できるWEBを活用する流れが今後主流になっていくことや、時給や労働環境の整備なども意識していかないといけない。時給については、農家側の経営もあるので課題は残るが、求職者目線の労働環境の整備など進めるようにしていくことが大事と思われる。

## 令和4年度取組み内容

### 今年度の取組み内容

#### イ 労働力の確保・育成（情報発信等）

■「アグリ人財バンク」への求職者層の会員化を促進し、求人情報を能動的に発信することによって、求人サイト（アプリ）を介した産地と労働力のマッチングを促進したが、微増の結果となった。

【アグリ人財バンク会員（東北南3県）】

22年3月：70人（宮城県31人、山形県27人、福島県12人）

→7%増 23年2月：75人（宮城県33人、山形県28人、福島県14人）

■副業やアルバイト等の雇用形態で取り組みやすい農業に特化した「daywork」の利用方法等を伝えるセミナーを通じて利用を促進した。

【daywork登録者】

22年3月：1,805人（宮城県309人、山形県1,172人、福島県321人）

→223%増 23年2月：4,031人（宮城県798人、山形県2,445人、福島県788人）

※今年度の利用者増は、本事業による効果としての影響力は弱いと思われるため、引き続きセミナーなどでの利用促進をおこなっていく。

■仙台商工会議所会員への会報誌「飛翔」への広告掲載および営業活動

- ・発行部数：9千部
- ・記事広告（セミナー開催、宮城・山形・福島JA中央会求職案内）：2回（7月号・8月号）
- ・チラシ折込広告（セミナー開催告知）：1回（6月号）
- ・営業活動：昨年に引き続き、コロナ禍により、WEB等での対応となった。

■南東北3県・観光事業者への営業活動

- ・事業者数：355社
- ・FAXによるDM（アグリ人財バンク会員案内・求職者向けセミナー開催告知）
- ・1回（8/26）実施
- ・営業活動：昨年に引き続き、コロナ禍と感染拡大の波に翻弄されているが、高まった観光需要への対応については、従業員不足の対応に追われる企業が多く、余力が無い状況は変わらないと言える

■求職者向けセミナー

- ・実施期間：令和4年9月7日（水）・実施様式：WEB形式・対象者：東北南3県（宮城県・山形県・福島県）の観光事業者および仙台商工高会議所会員企業の法人および農業に関する仕事に興味を持つ個人
- ・参加者数：80名（宮城県25名、山形県21名、福島県23名、その他11名）
- ・設問項目およびアンケート結果：別紙報告書参照
- ・内容：副業の注意点、dayworkおよび南東北3県の求人サービスの説明、農家家生産者とアルバイト経験者とのトークセッション等

【結果】

今回のセミナー参加者は興味・関心を持って参加された方が多く、副業で働く場合の注意点や実際の求人を探す方法としての求人アプリの実演など参考になったとの意見が多かった。また、地元県域での求人に対する取組みも参考になったとの意見が大変を占めた。農家生産者とアルバイト経験者のトークセッションでは、生の声を聞いて参考になったと評価された。受講した約75%の方が農業で働いてみたいと回答があった。課題としては、セミナー内容や運営にも一定の評価を得たが、短時間や1時間30分でまとまって良かったなど、セミナー運営時間も大事であることがわかった。また、試験的に参加し易い時間として、夕方17:30からとしたのも参加しやすかったと思われた。セミナー開催については、参加者が参加し易い運営設定に気をつけて農業の雇用促進に繋げていきたい。

## 今年度の取組み内容

### ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化

- アグリ人財バンクでは、セミナー参加者等を会員化し、メールマガジン等の情報伝達できる様、顧客管理をしている。
- アグリ人財バンクでは、東北南3県の農業求人情報は、会員へ向けメールマガジンの定期配信をしている。
- d a y w o r kとも連携し、アプリ利用状況を共有している。
- 日本農業法人協会とも連携し、セミナーを案内した。

### エ 農業の「働き方改革」への取組み（課題調査及びセミナー開催等）

- 求人農家およびJA担当者向けセミナー
  - ・ 実施期間：令和4年6月29日（水）・実施様式：WEB形式・対象者：東北南3県（宮城県・山形県・福島県）の生産農家およびJA・中央会・連合会担当
  - ・ 参加者数： 31名（宮城県12名、山形県5名、福島県4名、その他10名）
  - ・ 設問項目およびアンケート結果：別紙報告書参照
  - ・ 内 容：アルバイト雇用の注意事項、求人アプリd a y w o r kの活用方法、求人テーマとしたディスカッション等

#### 【結果】

成果とすると、求人農家として実際に雇用をする際にどのように進めたら良いのかなど不安に思われている農家が多かったが、セミナーを受講して理解が進んだこと。求人アプリの活用の仕方も皆様興味があり、前向きに検討していることもわかった。実際に雇用している現役農家についても高い関心を持ってくださった。

次回も参加したいという評価もいただいた。

課題面では、アルバイトの雇用に本当に前向きな層とまだ躊躇している層がいるため、内容についても難しいが、どちらの層にも関心を持ってもらう内容にすることも今後必要と思われた。

このたびはJAグループを中心に募集をしたが、繁忙期の地区もあったことから参加者が伸び悩んだ面もあった。参加者には一定の評価をいただいたセミナーであったが、次回のセミナーなどでは反省点を活かし、農業の雇用促進に繋げていきたい。

- 農家による求人活動を支援するためのガイドラインの制作と活用

#### ●日雇い雇用

d a y w o r kの利活用ガイドラインを事業セミナー参加者や生産部会、JAグループ内会議で配布し、扱いやすさや便利さをアピールし登録を促進した。

#### ●短期雇用

短期雇用向けガイドブックを制作・配布を実施

\* ガイドブックは電子データまでを昨年度事業にて制作。今年度は製本（2,500部）し、当社の宮城、山形、福島、郡山の各エリアセンターを通じて配布（セミナー参加者やJA部会等）

## 今年度の取組み内容

### オ 他産地・他産業との連携による労働力確保

■本事業では、コロナ禍における感染拡大の予防策として、エリア限定の取組みとなっているが、アグリ人財バンクは、本来全国域の会員システムであり、会員へ定期配信するメールマガジンでは、南東北の求人サイトの紹介を行った。

■本事業では、仙台商工会議所や観光事業者等の企業を優先した取組みとしているが、教育機関との連携のため、大学へ対し、援農ボランティアの提案を実施した。

【教育機関との連携】援農ボランティアの提案を実施

- ・福島県  
実施期間：令和5年1月24日（火）～25日（水）訪問大学：（福島市内）福島大学、福島学院大学（郡山市内）郡山女子大学、日本大学工学部
- ・宮城県  
実施期間：令和5年2月15日（水）～16日（木）訪問大学：仙台市内 東北学院大学、宮城学院女子大学、仙台白百合女子大学、宮城大学

【成果・課題】

- ・成果としては、ボランティア活動を通して学生が農業に親しむこと、社会貢献活動ができること、専門課程のある学校では就農に結び付く『きっかけ』を提案することができた（農業への関心を高める）
- 通常のボランティアには無い『農業』をテーマとすることで現状の農業における課題や将来像も学生に勉強させてみたいという意見もあった。
- ・課題としては、援農ボランティアに通う交通手段が地域によっては確保することができない（公共交通機関の無い地域での作業が難しい）。援農ボランティア側で負担する交通費や宿泊費、食費の自己負担が大きいのではないかとする意見。
- ・概ね、学校としては、取組みの趣旨を理解いただき、賛同もいただいているが、実際の実施に向けては、学内での検討や今まで自粛していたコロナ禍後の活動というところもあり、まだハードルが高いと感じている様子ではあった。学内の情報共有をお願いした。

■労働力の定着化に向けた体験会の実施

体験会の目的として、求人農家には、短期雇用に慣れていない・未経験の農家に対して、求職者受入スキル習得の機会提供。求職者には、農作業未経験者による実経験を通じた就農への興味・関心の向上の機会を提供。また、公募に関する情報拡散により農業求人に対する理解の向上を目指し実施した。

- ・実施期間：福島 令和4年10月24日（月）～26日（水）、令和4年10月27日（木）～29日（土）  
宮城 令和4年11月1日（火）～3日（木）、令和4年11月8日（火）～10日（木）  
山形 令和4年11月14日（月）～16日（水）、令和4年11月17日（木）～19日（土）（催行日順）
- ・対象者：農業求職者予備軍（大学生、ビジネスパーソン、シニア等）を対象に実施 ・参加者数： 11名（宮城県2名、山形県5名、福島県4名）
- ・作業内容：福島（柿に関する作業）、宮城（人参、ねぎ、花に関する作業）、山形（りんごに関する作業）

【成果・課題】

- ・成果としては、体験会を開催する趣旨に賛同していただいた、農業に興味がある方や就農を目指している方、農業で働いてみたい方の参加をいただき、実際に農作業を体験することによってその気持ちを後押しすることができたこと（但し、参加者の意識の違いもあり一概には言えない）
- また、受け入れ農家側も指導方法や快適に作業をしてもらうよう工夫をしていただき、今後の雇用受け入れ時の参考にしていただいた。記述式の感想にも、前向きな意見と受け入れ農家に対する感謝のコメントをいただいた。
- ・課題としては、就農を積極的に考えている層は、今回の体験会も一つの糧にして進んで行くと思われるが、まだ興味はあるが、生計面や本業までは考えていない層もあった。今後はその様な踏みとどまっているような層にも引き続き興味を持ってもらう体験会やイベントを実施していきたい。

## 本事業取組みにおける成果項目

■ 前述「オ 他産地・他産業との連携による労働力確保」でも記載をしました2点について

・【教育機関との連携】援農ボランティアの提案を実施  
教育機関との連携のため、大学へ対し、援農ボランティアの提案を実施した。

・【労働力の定着化に向けた体験会の実施】  
体験会の目的として、求人農家には、短期雇用慣れていない・未経験の農家に対して、求職者受入スキル習得の機会提供。求職者には、農作業未経験者による実経験を通じた就農への興味・関心の向上の機会を提供。また、公募に関する情報拡散により農業求人に対する理解の向上を目指し実施した。

## 次年度以降の取組み内容

■ 4年度に引き続き、短期労働力支援を中心に求職者の掘り起しをおこなう

・ 4年度の事業実施で、課題と思われる「働き方改革」において、雇用に関する契約や労働条件などの法律面、求職者が希望する労働環境面など、セミナーや部会などを通じて、雇用が促進されるように提案をしていく（農家、求職者の意識の乖離を縮める）

・ 引き続き、短期労働力支援に有効な手段である「求人サイトの活用」、特に求人アプリ「daywork」を中心に「アグリ人材バンク」の仕組みを活用するため、より知名度を上げるよう紹介を都度していく

・ 各県のJAグループをはじめ連携団体、行政機関とも情報交換、セミナーの提案など協力をしながら、求職者層の掘り起しをはかる活動を進めていく

・ まだ就農までの意識が無い層も、農業の魅力に気付いていた  
べくよう、援農ボランティアを提案し、裾野を広げる。